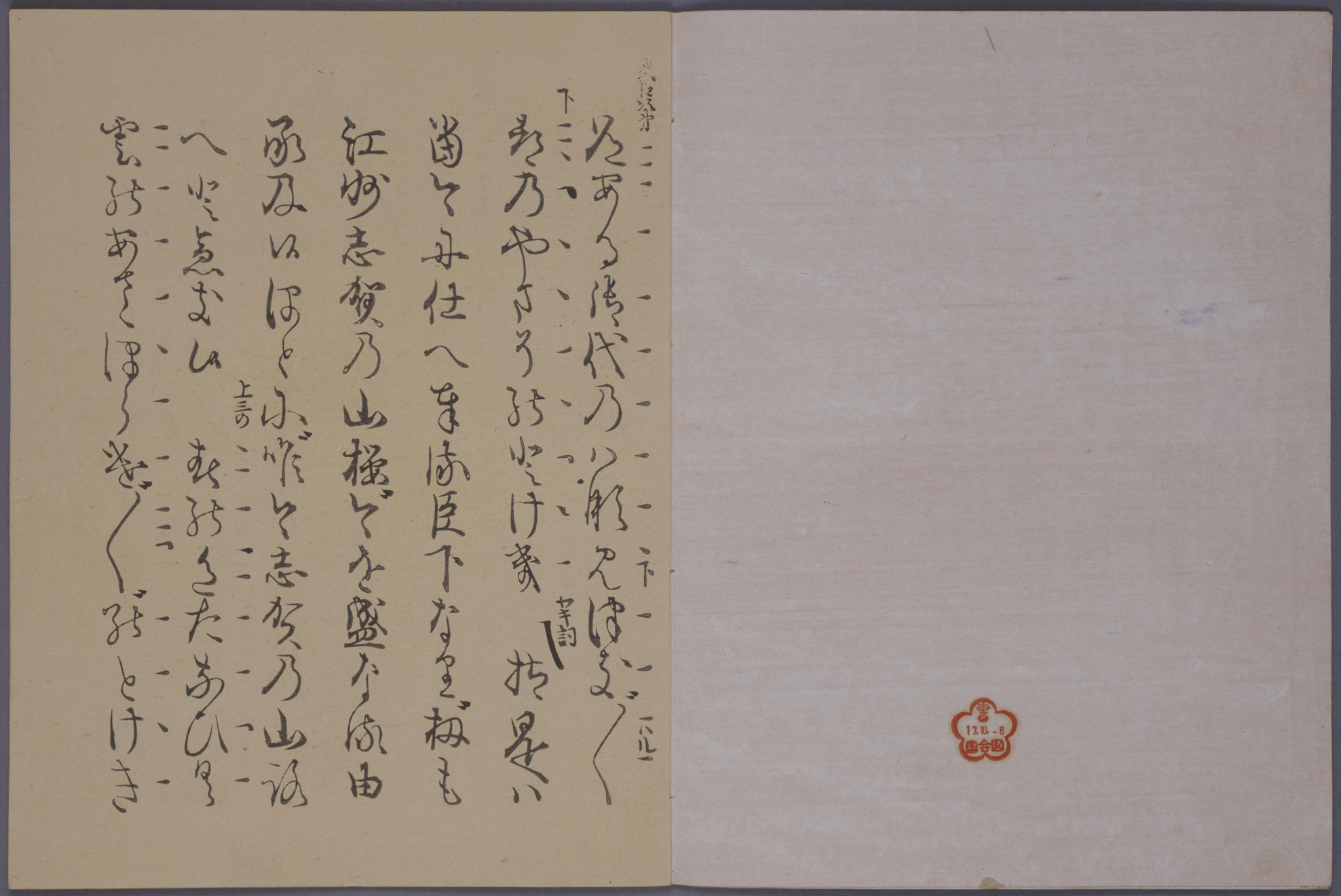
志賀

[謡本] 志賀 1冊 WA7- 037-001
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



[謡本] 志賀 1冊 WA7- 037-002

国立国会図書館

風乃をとハ山々さこえゝ行き
こゝ行そうゝ行ばゝよ志賀の山
こえや浦と成きさなゝ色かく
さゝ浪や志賀乃ゝやうゝ行ゝを
堅めて着なゝ行やさきゝ
はるゝみな行てや心なゝ月ゆも
あきけ乃ゝ殘ゝ月ゆ　山路乃

は皆ぬ想寄牧笛の聲人買ゝ
猴ゝ乃ゝ巷を渡る船ゝ猴
猪ゝと小さゝ犬ゝ犬乃ゝ犬乃ゝ
うけをや送るゝ餘ゝ山を
と成きゝ雲又陰を色へゝ
上ゝ
へゝ行ゝ者ゝもゝ
谷の川音面と乃ゝ

一一、二一、一八、一八ル一一一一やあやまたて
うきもうゝ岩ぎすのこゑ
一八ル、二一、二一一一一一一一一一一一
岩ねの雪たまりしもゝ
一八ル一一下一一、一一一一一一一一一一
きゝ社たわゝ　ヤキ詞　ゝきやの
見かゝる山路をこゝ社そおもうる
へ春の菊よなゝ花乃枝を折うゝ
やゝ世にも乃花なわゝ社い
心あるてやゝ世ゝうみたきてゝ

おもさゆやゝ世ゝ　ヲ詞　作長て
所はひぬ先菊よゝ世を折事い
千ヒル　一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
先野を乃たゝよゝ世ゝ桜おを活て
詞
菊やおゝ世ゝ社乃山人と哥人も
活不害あゝ世ゝ海ゝ更なゝ世
ツルヒヒル　一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
ゝゝゝゝ　ヲ詞　ゝ奥深き山路
一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
なゝ社ゝ松もひゝゝ成多ゝ世ゝ

[謡本] 志賀 1冊 WA7- 037-004
国立国会図書館

どもの花のうけるやれば成

三ノ詞

嫁菜のおもきにやれ成とゝ

天上

ゝ

ゝ

ゝ

更くまつぬ月なる秋せいやしき
月ゆゑ思ひよりてはこの大伴の
こゝろ
思をうぢくゝ詠をよりる老の浪
（ミギ上カル）
和哥の淵瀬乃もしほ草こゝろ
たとへをくゝ世語を詠を
（ヒキ）（ヒキ）（ヒキ）（ヒキ）
身詠ぬ是は体よりをもも
（ヒキ）（ヒキ）（ヒキ）（上三の月）
いやしき山かはの月ゆゑ

おぼをぬるなる秋せ、越るまを
（元）
好人ゝ人どもも思出よ兼乃
（元）（下）
信よやいにの世ぞ世やくまくも
（元）
竜を踐して賢えこの宝蒙の玉乃
（下）（元）
成乃法ゝ〳〵しく庵くの乃見せ
（下）（序月）（元）
りやくゝ　う秋うこの水清
（元）（元）
時代を見めるふ延喜乃聖代の

ゆきへ國をめぐり見民を捨て
百機おまたちまちと成沿め物の
さうるりを傳聞よりうけて
和哥おさをうまとうてこそ
ほ哥を撰ひ二重ち哥仙をぬと
しそ家おの人くハ野を分当乃
ひは詠うまどりやしまえ々業

未おの業乃傳遠のごとうち見遠く
哥人おの心ハもよ明るなうや
八くよ理未乃人きまぬまとわて
まそ傳形きけとうぬ　技能は
淡香山のうを見えて山の井乃
あそをハ旅の思ひ家おの霞往雲
きるとな物やう演乃まあよと

数かゝるとゝ
ろ者まてもゝ
乃あふ時代の
三十一文字
ゆひて豆兒頂
たまたまへて
時をたゝし

雲ゆきて四海
浪乃聲百重乃
うわくわ
ひをふゝ
乃ひゝ
雲巢ゆき

[謡本] 志賀 1冊 WA7- 037-009
国立国会図書館

以鏡乃山松ぞ[illegible]
[illegible]まそも見和哥ぞ[illegible]
[illegible]や天地をうこかす鬼神も
[illegible]なりとも
やはかたのくるしきを
[illegible]なりとも
[illegible]
[illegible]
[illegible]

志賀の宮ゐ

たちのるまてに志賀の宮路乃

うへまてにわくもそふい

けるの山をにまつまなんぐく

ぐ社ふそまけの花乃うけ月ふ

雨ふてあ下乃りぐ河の調子よ

緩まぐふ業歌詠ぐ者あった

[illegible]

雪かなまそぐふ

[illegible]

舞をりぐそまの弟乃姫ぐき濤

志賀乃山ごえそも同ぐ竜田乃

里もけるめ々近江乃海ぐ志賀

幸濤乃松風まのそも千鶴の声ぐ

乃ぐけそよ濤まぐにぐぐそう

むかふ鏡山　年毎めぐ月

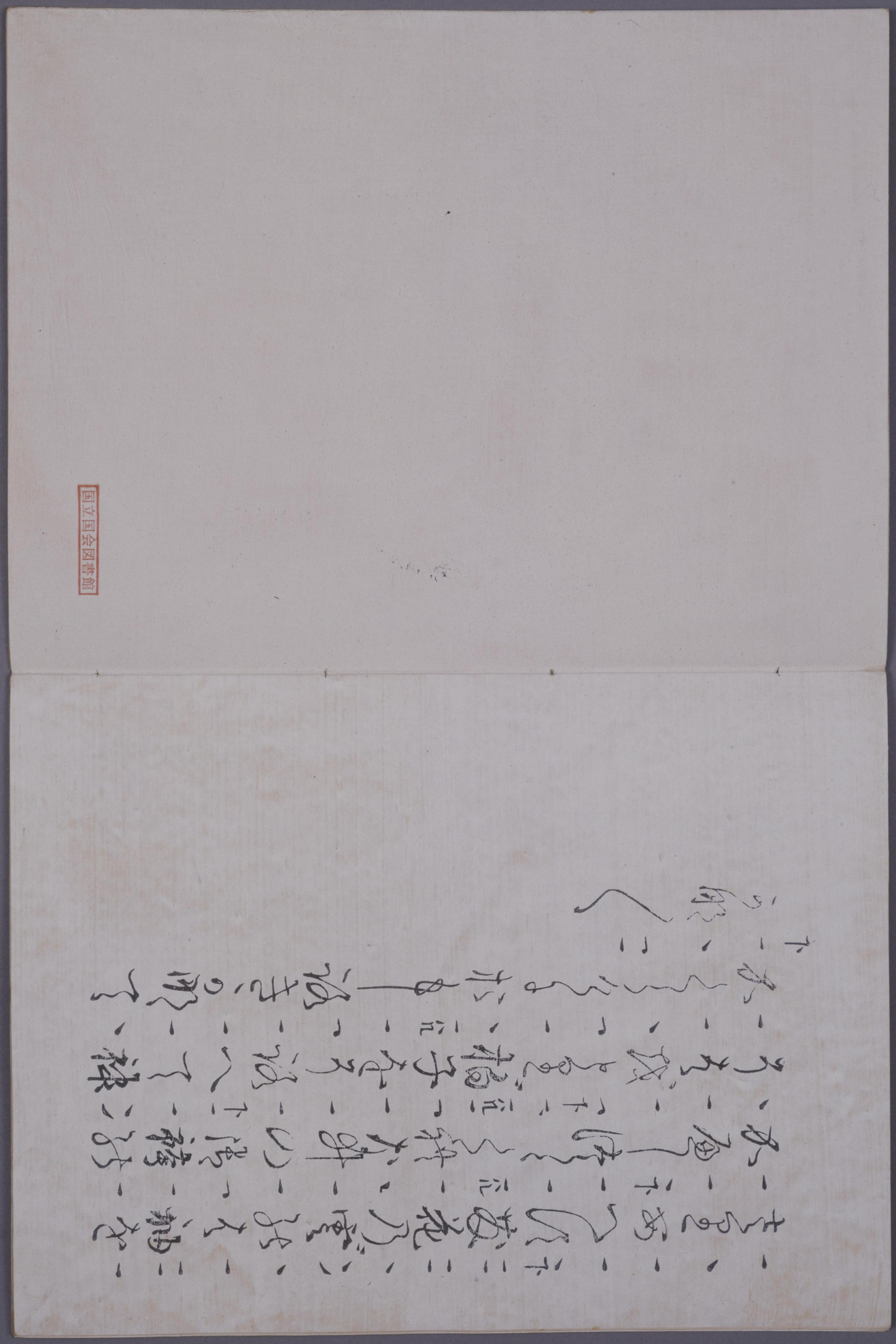
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[謡本] 志賀 1冊 WA7- 037-012

国立国会図書館



国立国会図書館

[謡本] 志賀 1冊 WA7- 037-013
国立国会図書館